

四半期報告書

(第100期第3四半期)

自 平成27年10月1日

至 平成27年12月31日

大建工業株式会社

E00619

目 次

	頁
表 紙	1
第一部 企業情報	
第1 企業の概況	
1 主要な経営指標等の推移	2
2 事業の内容	3
第2 事業の状況	
1 事業等のリスク	4
2 経営上の重要な契約等	4
3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	4
第3 提出会社の状況	
1 株式等の状況	
(1) 株式の総数等	6
(2) 新株予約権等の状況	6
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	6
(4) ライツプランの内容	6
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	6
(6) 大株主の状況	6
(7) 議決権の状況	7
2 役員の状況	7
第4 経理の状況	8
1 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
四半期連結損益計算書	11
四半期連結包括利益計算書	12
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13
2 その他	19
第二部 提出会社の保証会社等の情報	20
[四半期レビュー報告書]	21

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年2月12日
【四半期会計期間】	第100期第3四半期（自平成27年10月1日 至平成27年12月31日）
【会社名】	大建工業株式会社
【英訳名】	DAIKEN CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 億田 正則
【本店の所在の場所】	富山県南砺市井波1番地1 上記は登記上の本店で、本店の事務を行っている場所は 大阪市北区堂島一丁目6番20号（堂島アバンザ）
【電話番号】	（06）6452-6340
【事務連絡者氏名】	取締役常務執行役員財務経理部長 照林 尚志
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区外神田三丁目12番8号（住友不動産秋葉原ビル）
【電話番号】	（03）6271-7851
【事務連絡者氏名】	財務経理部 三宅 猛
【縦覧に供する場所】	大建工業株式会社本社大阪事務所 （大阪市北区堂島一丁目6番20号） 大建工業株式会社東京事務所 （東京都千代田区外神田三丁目12番8号） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第99期 第3四半期 連結累計期間	第100期 第3四半期 連結累計期間	第99期
会計期間	自平成26年4月1日 至平成26年12月31日	自平成27年4月1日 至平成27年12月31日	自平成26年4月1日 至平成27年3月31日
売上高 (百万円)	125,273	124,909	168,833
経常利益 (百万円)	3,638	4,539	4,648
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	2,107	3,877	2,736
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	4,284	4,124	5,709
純資産額 (百万円)	43,559	46,207	44,984
総資産額 (百万円)	140,648	140,721	135,596
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	17.16	31.97	22.34
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	27.6	30.8	29.9
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	7,311	6,761	9,299
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△3,227	△3,493	△4,072
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△2,361	△4,641	△2,635
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	15,983	15,181	16,774

回次	第99期 第3四半期 連結会計期間	第100期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成26年10月1日 至平成26年12月31日	自平成27年10月1日 至平成27年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	6.52	10.49

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。
5. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益」としております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社の異動につきましては、当社は、平成27年1月30日開催の取締役会決議に基づき、平成27年4月1日付で三重ダイケン㈱、岡山大建工業㈱及び東部大建工業㈱を井波大建工業㈱に吸収合併し、同日付で井波大建工業㈱を当社に吸収合併いたしました。これにより三重ダイケン㈱、岡山大建工業㈱、東部大建工業㈱及び井波大建工業㈱を連結の範囲から除外しております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、企業収益や雇用情勢が改善するなど、緩やかな回復基調で推移しました。

住宅建設分野におきましては、新設住宅着工戸数は賃貸住宅が比較的好調を維持し、持ち家や分譲住宅にも回復の兆しがみられましたが、全体の着工床面積では過去と比較しても低い水準で推移しており、厳しい環境が継続しております。一方、公共・商業建築（非住宅）分野におきましては、宿泊施設、飲食店舗や製造工場等を中心に民間建設工事受注が上向いておりますが、現在の着工は低い水準で推移しております。

このような経営環境のもと、当社グループは、国内の新設住宅着工に左右されない事業構造への転換を進めました。その一つとして、主要な4つの国内製造子会社を統合することで経営の効率化と人材の流動化による組織の活性化、開発、製造、営業の一体化を図りました。

市場・分野別には、住宅リフォーム市場において、TOTO㈱、YKK AP㈱と共同でTDYグリーンリモデルフェアを東京、名古屋、大阪、福岡で開催し、リフォームを予定しているエンドユーザーに対して、当社製品の魅力を伝える提案を行いました。公共・商業建築分野においては、当社のプライベート展示会「テクノビジネスフェア」にて当社の今まで培ってきた技術や実績を紹介し、住宅以外の新たな顧客・市場・用途への提案を行いました。また、海外市場においては、インドネシアに内装ドアを製造販売する新会社を設立し、今後成長するアジア新興国での拡大の準備を進めました。新築住宅市場については、今後の厳しい環境を見据え競争力を強化するために、デザイン、機能、品質を強化した70周年記念新製品を10月に発売し、市場への浸透に注力しました。

一方、利益面におきましては、合板などの輸入品を中心とした原材料コストの上昇に対して、各種合理化を進めるとともに、販売価格の改定を市場へ浸透させることで、改善を図りました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,249億9百万円（前年同期比0.3%減）、営業利益47億37百万円（前年同期比81.7%増）、経常利益45億39百万円（前年同期比24.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益38億77百万円（前年同期比84.0%増）となりました。

なお、当社グループは、2015年5月に、10年後の2025年を目指した長期ビジョン『GP25』を策定し、日本国内における『住宅用建材のメーカー』という企業像から、建材だけでなく、建材に使用する素材の供給から建材の施工・工事までを手掛けること、また、住宅だけでなく、公共・商業建築分野、産業用途分野まで幅広く展開すること、更に、国内だけでなく、海外に展開する『建築資材の総合企業』を目指すことを宣言致しました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(住空間事業)

住空間事業につきましては、業界初となる新技術を採用したシート化粧床材「トリニティ」の発売や、主力とする内装建材「ハピアシリーズ」の大幅なリニューアルなどにより、新築住宅市場でのシェアアップ及び住宅リフォーム市場での売上拡大に努めました。また、賃貸住宅市場において、階下や隣室への音に関する市場ニーズの高まりから防音を切り口とした製品の提案を進めました。公共・商業建築分野においては、木材に樹脂を注入し硬化させる当社独自のWPC技術を活用し、比較的軟らかいとされる国産の杉などを土足用フロアとして提案することで、多くの引き合いを頂いております。住宅リフォーム市場では、省施工の床材・収納などの新製品の提案を進め、売上を伸ばしました。

一方、利益面におきましては、輸入品を中心とした原材料コストの上昇に対して国産木材の活用推進などで抑制を図るとともに、各種合理化を進めました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高651億82百万円（前年同期比1.3%増）、経常利益31億9百万円（前年同期比42.7%増）となりました。

(エコ事業)

エコ事業につきましては、MDFにおいて、注力している海外市場での販売増などにより売上を伸ばしました。公共・商業施設向けにおいては、省施工・短工期で天井の耐震化が可能な、独自の新耐震天井工法「ダイケンハイブリッド天井」の提案を進めました。また、主に物流倉庫や店舗等の外装耐火下地材用途のダイライト不燃板を新たに開発し、軽量性による現場での作業効率の向上を特長とした新たな提案を開始致しました。

一方、利益面におきましては、石化原料などの原材料コストの軽減はありましたが、インシュレーションボードの売上の減少の影響を受け、悪化しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高421億67百万円（前年同期比0.0%減）、経常利益11億96百万円（前年同期比8.5%減）となりました。

(エンジニアリング事業)

エンジニアリング事業につきましては、公共・商業建築分野を中心とした内装工事において、近畿圏で工事需要が想定より伸びませんでした。重点エリアとして取り組んでいる首都圏で売上を拡大することができました。一方、リフォーム市場を中心とした工事においては、新築住宅市場と同様に需要の頭打ち感がある中で、苦戦いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高93億94百万円（前年同期比9.1%減）、経常利益72百万円（前年同期比48.9%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ15億93百万円減少し151億81百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は67億61百万円（前年同期比7.5%減）となりました。これは仕入債務の増加等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は34億93百万円（前年同期比8.3%増）となりました。これは有形固定資産の取得等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は46億41百万円（前年同期比96.5%増）となりました。これは連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、10億58百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見直し

当第3四半期連結累計期間において、経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見直しについて、重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	398,218,000
計	398,218,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数 (株) (平成27年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成28年2月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	125,875,219	125,875,219	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 1,000株
計	125,875,219	125,875,219	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数 (千株)	発行済株式総数 残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年10月1日～ 平成27年12月31日	—	125,875	—	13,150	—	11,850

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成27年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

平成27年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 4,367,000	—	単元株式数 1,000株
完全議決権株式（その他）	普通株式 121,323,000	121,323	同上
単元未満株式	普通株式 185,219	—	—
発行済株式総数	125,875,219	—	—
総株主の議決権	—	121,323	—

②【自己株式等】

平成27年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
(自己保有株式) 大建工業株式会社	富山県南砺市井波1番地1	4,358,000	—	4,358,000	3.46
(相互保有株式) 株式会社岡山臨港	岡山市南区海岸通二丁目 1番16号	9,000	—	9,000	0.01
計	—	4,367,000	—	4,367,000	3.47

(注) 当第3四半期会計期間末日現在の自己株式数は5,358,314株であります。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、仰星監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,774	15,181
受取手形及び売掛金	32,722	※3 40,609
商品及び製品	9,163	9,247
仕掛品	3,153	4,915
原材料及び貯蔵品	5,061	4,906
繰延税金資産	2,511	2,240
その他	1,825	1,558
貸倒引当金	△281	△284
流動資産合計	70,931	78,374
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,454	8,955
機械装置及び運搬具（純額）	10,338	10,161
土地	15,682	15,645
建設仮勘定	844	659
その他（純額）	2,247	1,921
有形固定資産合計	38,565	37,343
無形固定資産		
のれん	750	17
その他	1,628	2,224
無形固定資産合計	2,378	2,241
投資その他の資産		
投資有価証券	15,303	17,389
退職給付に係る資産	3,382	3,245
繰延税金資産	3,104	54
その他	1,905	2,072
貸倒引当金	△47	△46
投資その他の資産合計	23,648	22,714
固定資産合計	64,592	62,299
繰延資産	72	46
資産合計	135,596	140,721

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	24,104	※3 27,068
短期借入金	9,267	8,741
1年内償還予定の社債	5,000	5,000
1年内返済予定の長期借入金	3,013	3,853
未払金	18,693	22,374
未払法人税等	406	330
賞与引当金	1,869	1,042
製品保証引当金	1,058	915
その他	3,872	4,960
流動負債合計	67,286	74,287
固定負債		
社債	5,400	5,400
長期借入金	11,266	9,110
繰延税金負債	1,890	1,154
製品保証引当金	1,384	1,137
退職給付に係る負債	2,910	2,965
負ののれん	72	57
その他	400	400
固定負債合計	23,325	20,226
負債合計	90,611	94,513
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,150	13,150
資本剰余金	11,850	11,655
利益剰余金	13,478	15,032
自己株式	△2,302	△1,429
株主資本合計	36,177	38,408
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,158	4,829
繰延ヘッジ損益	83	△115
為替換算調整勘定	1,303	353
退職給付に係る調整累計額	△148	△115
その他の包括利益累計額合計	4,396	4,951
非支配株主持分	4,410	2,847
純資産合計	44,984	46,207
負債純資産合計	135,596	140,721

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	125,273	124,909
売上原価	97,046	94,547
売上総利益	28,227	30,362
販売費及び一般管理費	25,620	25,624
営業利益	2,607	4,737
営業外収益		
受取利息	49	43
受取配当金	267	317
負ののれん償却額	8	7
持分法による投資利益	29	30
為替差益	567	—
その他	642	473
営業外収益合計	1,565	873
営業外費用		
支払利息	287	279
売上割引	119	107
売上債権売却損	57	43
為替差損	—	578
その他	70	62
営業外費用合計	534	1,071
経常利益	3,638	4,539
特別利益		
固定資産売却益	6	7
投資有価証券売却益	5	1
受取保険金	—	2,601
その他	—	109
特別利益合計	12	2,719
特別損失		
固定資産除却損	311	211
減損損失	77	—
のれん償却額	—	686
その他	5	4
特別損失合計	394	903
税金等調整前四半期純利益	3,256	6,356
法人税、住民税及び事業税	338	437
法人税等調整額	534	1,936
法人税等合計	872	2,373
四半期純利益	2,383	3,982
非支配株主に帰属する四半期純利益	275	105
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,107	3,877

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
四半期純利益	2,383	3,982
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	983	1,670
繰延ヘッジ損益	△43	△271
為替換算調整勘定	858	△1,289
退職給付に係る調整額	102	32
持分法適用会社に対する持分相当額	0	△0
その他の包括利益合計	1,901	141
四半期包括利益	4,284	4,124
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,790	4,431
非支配株主に係る四半期包括利益	494	△307

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,256	6,356
減価償却費	3,068	2,980
減損損失	77	—
固定資産除却損	311	211
固定資産売却損益 (△は益)	△6	△7
投資有価証券売却損益 (△は益)	△5	△1
ゴルフ会員権評価損	5	—
のれん償却額	56	718
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△60	1
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△914	△817
製品保証引当金の増減額 (△は減少)	△1,115	△390
事業構造改善引当金の増減額 (△は減少)	△4	—
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△289	191
受取利息及び受取配当金	△317	△361
支払利息	287	279
為替差損益 (△は益)	△155	147
持分法による投資損益 (△は益)	△29	△30
受取保険金	—	△2,601
売上債権の増減額 (△は増加)	947	△7,994
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△2,256	△2,045
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,934	6,409
未払費用の増減額 (△は減少)	△14	△270
その他	2,116	1,746
小計	7,891	4,522
利息及び配当金の受取額	317	361
利息の支払額	△238	△233
法人税等の支払額	△659	△489
保険金の受取額	—	2,601
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,311	6,761
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,662	△2,949
有形固定資産の売却による収入	10	9
投資有価証券の取得による支出	△234	△95
投資有価証券の売却及び償還による収入	34	510
その他	△374	△968
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,227	△3,493
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	78	△391
長期借入れによる収入	1,700	200
長期借入金の返済による支出	△1,970	△1,515
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△32	△32
非支配株主からの払込みによる収入	—	234
自己株式の取得による支出	△1,121	△357
配当金の支払額	△929	△1,093
非支配株主への配当金の支払額	△86	△42
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△1,642
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,361	△4,641
現金及び現金同等物に係る換算差額	152	△220
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,874	△1,593
現金及び現金同等物の期首残高	14,096	16,774
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	12	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 15,983	※1 15,181

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当社は、平成27年1月30日開催の取締役会決議に基づき、平成27年4月1日付で三重ダイケン(株)、岡山大建工業(株)及び東部大建工業(株)を井波大建工業(株)に吸収合併し、同日付で井波大建工業(株)を当社に吸収合併いたしました。これにより三重ダイケン(株)、岡山大建工業(株)、東部大建工業(株)及び井波大建工業(株)を連結の範囲から除外しております。また、当第3四半期連結会計期間より、PT. DAIKEN DHARMA INDONESIAは新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更しております。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更しております。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

当第3四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載しております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。また、当第3四半期連結会計期間末の資本剰余金が195百万円減少しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

債権流動化に伴う買戻し義務

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
債権流動化に伴う買戻し義務	1,526百万円	1,798百万円

2 受取手形裏書譲渡高

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
受取手形裏書譲渡高	1,357百万円	1,958百万円

※3 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
受取手形	－百万円	452百万円
支払手形	－	1,057

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
現金及び預金勘定	15,983百万円	15,181百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	—	—
現金及び現金同等物	15,983	15,181

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	470	3.75	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金
平成26年11月7日 取締役会	普通株式	459	3.75	平成26年9月30日	平成26年12月8日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成26年5月12日及び平成26年11月7日開催の取締役会決議に基づき、合計3,963,000株の自己株式を取得いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が11億200万円増加し、当第3四半期連結会計期間末において自己株式が23億100万円となっております。

II 当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	455	3.75	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金
平成27年11月6日 取締役会	普通株式	637	5.25	平成27年9月30日	平成27年12月8日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額には、当社創立70周年記念配当1円50銭が含まれております。

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成27年5月18日開催の取締役会決議に基づき、平成27年6月5日付で、自己株式5,000,000株を消却いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が0百万円、利益剰余金が1,229百万円それぞれ減少し、自己株式が1,229百万円減少しております。また、平成27年11月6日開催の取締役会決議に基づき、自己株式1,000,000株を取得いたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間において自己株式が357百万円増加しております。なお、当第3四半期連結会計期間末の資本剰余金は11,655百万円、利益剰余金は15,032百万円、自己株式は1,429百万円となりました。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	住空間 事業	エコ事業	エンジニ アリング 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	64,343	42,179	10,334	116,856	8,417	125,273	—	125,273
セグメント間の内部 売上高又は振替高	469	3,491	1,624	5,586	325	5,912	△5,912	—
計	64,812	45,670	11,958	122,442	8,743	131,185	△5,912	125,273
セグメント利益	2,179	1,307	141	3,628	9	3,638	—	3,638

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「その他」セグメントにおいて、当第3四半期連結会計期間に遊休資産について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	住空間 事業	エコ事業	エンジニ アリング 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	65,182	42,167	9,394	116,744	8,165	124,909	—	124,909
セグメント間の内部 売上高又は振替高	555	4,094	1,546	6,197	319	6,516	△6,516	—
計	65,738	46,261	10,941	122,941	8,484	131,426	△6,516	124,909
セグメント利益	3,109	1,196	72	4,378	161	4,539	—	4,539

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の合計額は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

1. 取引の概要

- (1) 結合当事企業の名称及びその事業の内容
大成工業（寧波）有限公司（住宅機器・木質内装建材製造）
DAIKEN NEW ZEALAND LIMITED（MDF製造）
- (2) 企業結合日
平成27年10月1日（みなし取得日）
- (3) 企業結合の法的形式
非支配株主からの株式取得
- (4) 結合後企業の名称
変更ありません。
- (5) その他取引の概要に関する事項
資本関係をより強固なものとするため、非支配株主が保有する株式を取得したものであります。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、共通支配下の取引等のうち、非支配株主との取引として処理しております。

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金及び預金	498百万円
取得原価		498

なお、「企業結合に関する会計基準」及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」に基づき、追加取得持分と追加投資額との間に生じた差額126百万円は資本剰余金として処理しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	17円16銭	31円97銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	2,107	3,877
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益金額(百万円)	2,107	3,877
普通株式の期中平均株式数(千株)	122,817	121,294

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成27年11月6日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額……………637百万円

(ロ) 1株当たりの金額……………5円25銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………平成27年12月8日

(注) 1. 平成27年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

2. 1株当たりの金額には、当社創立70周年記念配当1円50銭が含まれております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年2月8日

大建工業株式会社
取締役会 御中

仰星監査法人

代表社員 公認会計士 向山典佐
業務執行社員

代表社員 公認会計士 寺本悟
業務執行社員

業務執行社員 公認会計士 田邊太郎

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大建工業株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成27年10月1日から平成27年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、大建工業株式会社及び連結子会社の平成27年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。